

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070702818		
法人名	株式会社 シダー		
事業所名	あおぞらの里 グループホーム 黒崎		
所在地	〒806-0051 福岡県北九州市八幡西区東鳴水三丁目6番1号 Tel.093-645-1612		
自己評価作成日	令和05年01月16日	評価結果確定日	令和05年03月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①ご入居者様の日々の日常生活を近況報告や写真などで毎月お送りしています。ご家族様との交流の場でもある運営推進会議につきましては感染症拡大防止の観点から現在は書面での開催にはなっていますがご要望等がありましたらアンケート等で意見を書いていただいています。今後のケアについても考えています。</p> <p>②出来る限り自分で出来ることは自身でして頂き自立支援を目指しております。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel.093-582-0294		
訪問調査日	令和05年03月03日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>八幡西区郊外の住宅街に新築移転して11年目を迎え、デイサービス併設で定員9名の事業所である。美化活動に法人全体で取り組み、清掃が行き届き、清潔な住環境が整い、コロナ感染症予防対策としてオゾン発生器を2台設置して、利用者が安心、安全に過ごせるよう配慮している。ホームドクターによる訪問診療と介護職員が連携し安心の医療体制が整い、少しでも長くホームで過ごせるよう連携して支援している。職員のチームワークを活かした明るく細やかな対応でその人らしい暮らしに寄り添い、利用者の笑顔を引き出して、働きやすい職場環境の中で職員の離職も少ない。管理者を中心に、家族との関係に気を配り、小まめな報告、連絡、相談を行い、ホーム便り、個別の近況報告を毎月送付して利用者の暮らし振りを伝え、「安心して任せられる」と家族の信頼も厚い「あおぞらの里グループホーム黒崎」である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員同士、意見を共有して実践にうつせている。	法人理念をフロアに掲示し、職員が日常的に目にする事で理念の共有を図っている。入社時の研修の中で理念を理解する機会を設けて、管理者から理念について説明し意識づけを行い、利用者一人ひとりに寄り添うケアの実践に取り組んでいる。	理念を出勤職員で唱和する等、定期的に理念を確認する事で、職員間の意識づけを行い、理念を共有し、実践に繋げていく事を期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩をすることで交流を図れている。	今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、地域の行事、活動が中止になっている。また、毎年、小学校の職場見学を受け入れているが、今年度は書面アンケートに答える形で実施している。ホーム周辺を散歩する時には、地域の方に挨拶を心掛けて世間話に繋げ、地域の方との関係作りに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方と交流を図れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でアンケート用紙にて意見を頂いている。	新型コロナウイルス感染症対策のため、報告を書面で行い議事録を送付し、意見や情報等を電話で聴き取る形で運営推進会議を行っている。利用者、家族、町内会会長、地域包括支援センター職員から出された意見や要望は検討し、介護サービスの向上に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらっています。	グループホーム協議会に参加し、他グループホームや行政と意見や情報交換を行っている。管理者は行政担当窓口へ、空き状況や事故等の報告を行い、疑問点や困難事例があれば相談し、連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員同士、話し合いで身体拘束をしないケアを考えて取り組んでいます。	身体拘束適正化委員会を定期的開催し、社内、ホームでも定期的に勉強会を開催し(年4回)、身体拘束が利用者に及ぼす弊害について職員一人ひとりが、理解を深めている。また、禁止行為の具体的な事例を挙げて正しい理解に努め、職員一人ひとりが身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士、話せる環境を作るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、学んでいきたいと思います。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の資料やパンフレットを用意して内部研修を実施し、職員が制度の内容を学ぶ機会を設けている。利用者や家族に制度の内容を説明し、必要時には申請機関に橋渡し出来る体制を整え、利用者の権利や財産が不利益を被らないよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	気になる点は話し合いで改善するようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会等で来られた際に意見を聞くようにしている。	コロナ感染症対策のため、家族面会や運営推進会議の開催が難しい状況であるが、電話等で小まめに家族とのコミュニケーションを図り、意見や要望、心配な事等を聴き取り、出された意見をホーム運営や利用者の日常介護に反映させている。また、ホーム便りと個別の近況報告を毎月送付し、家族の安心に繋げている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と意見交換出来ている。	勤務時間帯の13時半から14時の間に出勤職員で毎月職員会議を開催している。会議時に限らず日頃から職員間で話し合い、管理者に相談し、出された職員の意見や提案を検討し、出来る事からホーム運営や業務に反映させている。また、3ヶ月毎に人事考課を行い、管理者が職員一人ひとりと話を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給制度もあり、やりがいを持てるようになっている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	研修会へ参加している。	職員の募集は年齢、性別、資格、経験等の制限はなく、一日職場体験後に意思を確認して採用している。管理者は、職員の特技や能力を把握し、適材適所に役割分担し、職員一人ひとりが意欲的に働ける環境作りに取り組み、職員の離職は少ない。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育に取り組んでいる。	利用者の人権を守る介護サービスについて、職員会議や内部研修の中で話し合っている。利用者一人ひとりの個性や生活習慣に配慮し、言葉遣いや対応に注意して、利用者がホームの中でその人らしく安心して過ごせるよう支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修も参加して参加者は伝達講習している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入っている。勉強会に参加している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	他の入居者様と馴染んでもらえるように工夫している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	信頼を築けるように話を聞くようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今後の支援について検討している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に共有できるようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告を行っており面会時に話しが出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お便りを毎月送っています。	新型コロナ感染症対策のため、直接の面会が難しい状況であるが、電話で声を聞いたり、ガラス越しに顔を合わせる等、工夫しながら、ホーム入居で馴染みの関係が途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員で交流できるように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた方には通夜に伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	仕草や表情を見るように努めている。	日常生活の中で、職員は利用者の思いや意向を把握し、アセスメントに記録して職員間で情報を共有し、日常の介護サービスに活かせるように支援している。また、意向表出が困難な利用者には、家族と相談しながら職員が利用者に寄り添い、その表情や仕草から利用者の思いに近づく努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活等を聞くようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日記録に残して全職員に伝わるようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士、意見の交換するようにしている。	利用者や家族の意見や要望を聴き取り、担当者会議で検討し、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記入している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度対応するようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加できるようにしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はすぐに対応してくれています。	入居時に、利用者や家族の希望を聞いて主治医を決めている。現在、全員がホームの協力医による定期的な訪問診療を受けている。他科受診は家族の協力の下行い、緊急時には往診をお願いする等、24時間利用者の健康管理を行い、安心の医療連携が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の方と話しが出来るようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今後の注意することも聞くようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	少しでも長く入居して頂くように努めている。	利用者や家族に、重度化や終末期に向けたホームの方針を説明し、了承を得ている。利用者の重度化が進むと、家族と密に連絡を取りながら、主治医を交えて今後の方針を話し合い、利用者が1日でも長くホームで暮らせるよう支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会にてテーマを組んでしている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を実施して家族や地域の方に参加してもらっている。	非常災害を想定した避難訓練を年2回実施し、通報装置や消火器の使い方を確認し、一斉通報装置に地域の方の連絡先を登録して、いざという時には駆けつけてもらえる協力体制を整えている。また、災害時に備えて非常食や飲料水を備蓄している。	ホームが2階にあるため、特に職員が一人になる夜間想定訓練を繰り返し、近隣に住む職員や地域の方の具体的な協力体制を確認し、非常時に備えることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員に対して個別に指導している。	利用者のプライバシーを守る介護サービスを職員が理解し、言葉遣いや対応に配慮している。法人全体で接遇に力を入れて取り組み、電話対応、挨拶、優しい声掛け等を徹底している。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、管理者が職員に常に説明し、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員同士で取り組んでいる。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況に応じて対応するようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日によって洋服を変えています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月2回は手伝いをしてもらいながら食事作りをしている。	昼食と夕食は1階の厨房で作られる委託業者による配食サービスを利用している。利用者の嗜好を聴き取り、職員が作る月2回の家庭的な料理の提供と、週1回のおやつ作りは、利用者の楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	声掛けを工夫しバランスよくとっていただくようにしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その日の職員で連携を図りながら支援を行っている。	職員は利用者の排泄パターンを把握し、声掛けが必要な利用者には排泄管理表に記録して排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。また、職員は、利用者の腹部マッサージや水分摂取に取り組み、利用者の排泄がスムーズに行われるように支援に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方に関してかかりつけ医に相談している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴を安全にされている。	利用者の希望や体調に配慮しながら週3回(火、木、土)を入浴支援し、湯船に菖蒲や柚子、香りの良い入浴剤等を入れて、入浴を楽しめるように配慮している。また、入浴は、利用者と職員が一对一でゆっくり話が出来る大切な時間と捉え、しっかりとコミュニケーションを取っている。現在、入浴を拒む利用者はいない。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	しっかりと睡眠をとっていただくように日中は活動的に過ごしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関して記録している。症状の変化にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事のお手伝いなどして頂いている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と共に外へ散歩ドライブなども楽しんでもらっています。	新型コロナウイルス対策のため、外出を控えているが、天気の良い日には個別に近所を散歩したり、コンビニエンスストアに買い物に出かけ、ドライブを楽しむ等、利用者の気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の希望に応じて対応するようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りができるように工夫している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にいるような落ち着いた雰囲気でも過ごしてもらえるように工夫している。	美化活動に励み、季節毎のディスプレイで、季節感のある清潔で明るい雰囲気の共用空間となっている。また、感染症対策には特に力を入れて取り組み、オゾン発生器を2台設置し、感染症予防対策に取り組んでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自身で自由に居室に行かれたりされている		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の方が写真を持って来られる。	利用者の馴染みの家具や身の回りの物、家族の写真等、大切な物を持ち込んでもらい、生活環境が急変しないように配慮し、利用者が安心して過ごせる居室となるように支援している。また、清掃を小まめに行い、清潔で居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることはして頂くようにしている。		